

長崎グリーンヘルパーの会会報

発行責任者 会長 前川文雄



活動の成果！彩る花ばな

遠藤周作文学館屋外整備

(長崎市東出津町)

4月9日(日)	参加者	峰,片山,久田,森
5月28日(土)	参加者	峰,片山,小林,久田,森,田中
6月17日(土)	参加者	峰,片山,小林,久田,森,田中,汐除

遠藤周作文学館では、今沢山の紫陽花が咲き、梅雨を彩っています。ハマボウも咲き始めます。毎月参加の会員皆さんの活動の成果です。活動に参加して下さる会員ひとりひとりの熱心な作業で美しく保たれています。

今年度は、椿、ハマボウの剪定を中心に、何時も通りの活動を各会員無理の無い範囲で続けたいと考えています。外海の美しい景色の中で、のんびり ゆったりとした時間を感じながら皆さん参加しませんか？

(峰 久代)



4/9 展望所に咲いたツツジ



6/17 展望所椿等の剪定

はかどった作業、急斜面も整備

6/17 今日は7人の参加があり、賑やかな作業となった。刈払い機3人(3台)、花木の剪定2人とアジサイの草取り2人に分かれて取りかかった。

刈払い機3台の威力で、椿、ハマボウの下草も久々に刈られすっきりした。足場が悪いアジサイ植栽地上部の急斜面の草刈りを、今日参加の汐除さんが、見事に刈り終えた。

花木の剪定は専門の小林さんと片山さんが担当。椿、つつじなど強めの剪定で眺望も一段とすっきりなった。

久々に7人の参加者で、作業はずいぶんはかどったが、何より参加者数が一番重要である。

(森 俊一)



6/17 急斜面を刈る汐除さん

春をたのしむ会

植物の学習や野草を食べる

汐除 時也

期日 5年5月21日(日)
 場所 大村市宮代町 荒木会員宅周辺山・川・畑
 講師 宮崎勉先生(NGH顧問)
 参加者 荒木ご夫妻,越田,細川,前川,根岸ユ,根岸マ,
 根岸ア,汐除

アメリカンミニチュアホースのナナ、ヤギのサクラと大型犬のニコルが戯れる晴れた長閑かな春の日に、宮崎先生から頂いた写真入り野草一覧を片手に、山荘の前から反時計回りに裏山を散策しました。

折々道端に生える野草を宮崎先生に解説して頂きながら、食べられるものを採取しました。

途中で、宮崎先生から、セイタカアワダチソウを4cmくらいに切って皮をむき指で摘んで飛ばす遊びや、メザシのように、草イチゴを多分アオカモジグサの茎で刺して集める方法も楽しく経験しました。

そして、裏山となる植林伐採地からの大村湾の眺めも最高でした。

登りに時間が掛かり、予定していた堤一周をあきらめて、堤防を渡り、その排水路となった小川を下っていき、山荘に下りていきました。小川にはニコル用プールもあり、遊び心満載の山荘でした。

また、荒木さんから畑の野菜をたくさん提供して頂き、かなりの量になりました。

山荘の作業小屋に到着して、野草を洗い、てんぷら粉を魔法の水で溶いてスタンバイし、前川会長が用意した、カセットコンロと天ぷら鍋で揚げ方も準備万端、根岸母娘がメインとなり、衣を付けておいしく揚げてみんなで頂きました。



途中で、畑の野菜も追加されて盛りだくさんとなり、荒木さんから吸い物も提供され、楽しい昼食会となりました。

天ぷらで食べた中で、私が知っていたのは、多分ヨモギと茗荷でした。

自然たっぶりの中で、生きるための知識も学び、とても楽しい経験をさせてもらいました。

最後に、自分たちで完結する予定の野草天ぷら昼食会でしたが、準備から後片付けまで荒木ご夫妻にお世話になりました。ありがとうございました。

また、前川会長には廃油の油固め剤をはじめとする諸道具をお持ちいただきありがとうございました。

次回はもっとみなさんと軽く役割分担ができればよいかなと感じました。

今日教えて戴いた植物名

マムシグサ、ウマノミツバ、キンミズヒキ、マエカワカズラ=サネカズラ、ヌスビトハギ、ヒメジョオン、ヨメナ、シャガ、カラスサンショウ、サンショウ、ゴンズイ、セイタカアワダチソウ、ニガナ、ノバラ、アカメガシワ、ハマクサギ、テリハノイバラ、カモジグサ、アオカモジグサ、メドハギ、ハハコグサ、オミナエシ、オトコエシ、マツヨイグサ、ノゲシ、オノゲシ、(フジワラ) テイカカズラ、ケカモノハシ、クララ、ネコハギ、ウシハコベ、ナワシロイチゴ、ムラサキケマン



農業体験

(雲仙市瑞穂町)



4月22日(土) 参加者 細川,根岸ユ,根岸マ,根岸ア,森,梅澤夫人
 5月20日(土) 参加者 細川,片山,根岸ユ,根岸マ,森
 6月5日(月) 参加者 細川,片山,峰,根岸ユ,根岸マ,森

つゆ 雨の合間にジャガイモ収穫

6月5日活動 春ジャガの収穫とサツマイモの植付け

6/3が当初の活動予定日だったが、ジャガイモ収穫には雨あがり直後は良くないと判断しこの日となった。まず全員でジャガイモの収穫から始めた。ジャガイモは6畝植付けてあり、2時間あまりで全部掘り上げた。白芋/赤芋7:3くらいの割合だろうか。白芋の大きいのが目立つが、比較的良いできである。

午後はサツマイモ植付けを行なった。前回作業でサツマイモの植え畝を4畝造っていたが、その3畝に4種類、50本を植付けた。(なんと金時:10本、ベニアズマ:10本、シルクスーツ:20本、ベニハルカ:10本) 植付け終了後水をかけ終了した。10月に収穫予定である。

植付け要領…マルチを施した後、マルチをカッターナイフで切明け、畝の土中に棒で斜めに穴を開けて、そこにサツマイモの蔓苗を4節程差し込み約40cm間隔で植えた。ワラ灰などの加里肥料が準備できなかったのは残念。

草刈りは細川さんが全て行ない、畑周辺部のほか雑草が伸びている場所はほぼ刈り取った。
 (森 俊一)



6/5 ジャガイモ収穫



6/5 サツマイモ蔓を植付ける
根岸さん



6/5 参加者



4/22 草取り土寄せ前(左)
後(右)

今年も美味しいサツマイモ期待！！

4月22日活動

タマネギ収穫、ジャガイモの草取りおよび土寄せ、周辺草刈り

3月4日に植付けたジャガイモは所々芽が出なかった処もあるようだが、まだ草に埋もれるほどではなく、今は大事な草取りと土寄せの時期。手作業での6畝の草取りは大変だったが、全員で取りかかり、土寄せまでなんとか終了でき一安心。

5月20日活動

活動の主な目的は、次回(6月3日)活動作業予定のサツマイモ植付けのための畝造り。今年も美味しいサツマイモを期待。畝造りの最初は刈り払い機でざっと草刈りを行い、それから鍬で耕すハードな作業である。5人で休み休みしながらなんとか4畝を造った。
 (森 俊一)



5/20 サツマイモの畝造り

ハイキング部



久々の達成感と満足感

八郎岳登山

4月23日 参加者 前川、馬場、汐除、小林

小林 征雄

八郎岳は平安時代末期、源義経の叔父で九州で勢力を振った鎮西八郎為朝の名に由来するとされている。弓の名手であった為朝が八郎岳山頂から放った弓矢が、江川町の湖に落ちたことから落矢と言う名が付き、現在の落矢ダムとして名が残されている。

4月23日午前10時10分江川運動公園を出発し、登山口である落矢ダムを通り尾根へ。今回は兜岳コースを少しはずれて、林道～尾根道～稜線を登り、倒木の間や急斜面をよじ登る八郎岳直登の登山となりました。10数回の休憩をとり、馬場さんと、汐除さんからお菓子の差し

入れて元気を取り戻し、出発から3時間20分で山頂へ到着。

長崎市内が一望できる景色と楽しい昼食をとり、兜岳は次回へ回し、平山方向の登山道を下山。途中、竿浦町へ下る平石分岐を経て、大山祇神社へ参拝し、午後3時40分、江川公園に戻った。

本日の登山は参加者一同、「久しぶりに登山をした」と言う達成感と満足感を感じた。一方私達を終始リードした前川さんが鬼に見えたり、下山後は仏？に見えたりした一日でもありました。



登山ルート



八郎岳頂上



鹿の角で傷つけられた跡

ハイキング部だより

<市民に親しまれる山彦山に登る>

小林 征雄

江戸時代、長崎では正月2日から15日頃までの間、市街を囲む七つの山をわらじ履きで一日かけて巡拝する習わしがあった。七つの山とは金比羅山、七面山、烽火山、秋華山、豊前坊、彦山、愛宕山で愛宕山の代わりに岩屋山に登ってもいいとされている。

2月4日(土)定例会終了後、前川、栗山、多田マ、小林の4人で標高401mの彦山に登った。この日は晴天で、12時5分、NPO法人のへんちくりんの駐車場から田手原～豊前坊へ参拝し、彦山登山道へ。急斜面を登ること30分で、見晴らの良い彦山山頂へ着いた。展望が良い山頂からは雲仙の平成新山や天草が見わたせ、景色をおかずに昼食をとり、休憩のあと彦山の森方向へ下山、約2時間の心地よい登山となった。



彦山山頂

竹灯りのつどい連絡情報

- 1) 開催日、開催場所について ◆7月23日(日)に開催(中島川夜市が8月開催の意向による)
◆中島川公園の眼鏡橋周辺とする(長崎市土木総務課に予約済)
- 2) 今後のスケジュールについて
 - ・4/29 竹の伐採完了
 - ・6/3(土) 伐採した竹の寸法取りが完了し、竹灯籠の穴開け作業準備ができました。

梅松鶴竹林整備

(長崎市西坂町)



4月2日(日)	参加者	多田マ,栗山,田中,小林
4月9日(日)	参加者	多田マ,栗山,山本,小林
5月14日(日)	参加者	多田マ,栗山,田中,小林
5月22日(日)	参加者	栗山,小林
6月4日(日)	参加者	多田マ,栗山,田中,小林
6月11日(日)	参加者	多田マ,栗山,田中,小林



5/22 庭木剪定



地域の民話 (1)

「アボヨイコボヨイ」



作 梅澤 清

ねエ よう聞いとけよ。お婆さんは、しわくちやの顔をぐっと近づけて、そして目を大きく見開いて、そして低い声でゆっくりと話し始めた。

昔の話したい。あるところに与助という男がおったげな。

もう歳の暮れで、松の芯を飾り歳迎えの準備も進みほつとちよつた。

が、与助には、まあだ仕事が残ちよつた。二人の息子の正月頭を切らなんじよつた。

その頃は、どこの家でも子供の頭はわが家で切りよつた。与助は切れんバリカンに、カタシの油ばさし、切りよつたげな。そげんしちよるうち、首に巻いた風呂敷が、咳をしたはずみに舞い上がり、子供が髪の毛を吸い込み、そして喉に引っかけてしもうた。指を突っ込んでも取れんし、水を飲んでも駄目じよつた。

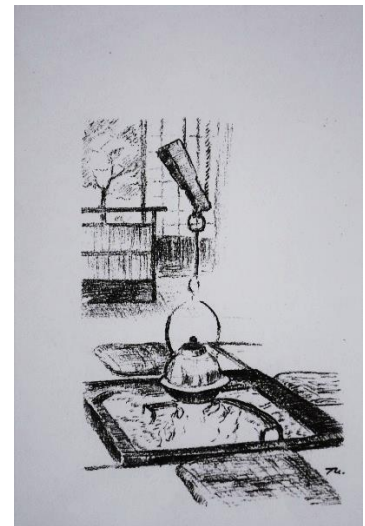
人の話では、アオミルという海草ばゆがいて食えば、髪の毛が取れて楽になるということじよつた。そこで与助は、船津のナガサキ瀬に行くことになった。にわか作りの松明を手に、暗か道を下つていった。浜は何時もより沖の方まで潮がひいて、松明のあかりで昼のようにあかあかとしていた。目当てのアオミルはすぐ取れた。いいだこやせつかなど面白いように捕れ、時間の経つのも忘れてしもうた。

ふと気づくと、周りの松明も消えて、いつの間にか自分だけになっていた。松明を振り回してみても、帰る方角が分からんごとなつた。草鞋にも冷たい水がしみて足元にどどん水が来て、あつという間に流されてしもうた。籠も手放し松明も海の中に落として、ただもがくだけじよつた。

与助は流されながら、大声で叫んだ。アボヨイ コボヨイ と力の限り叫んだ。

アボヨイ コボヨイ アボヨイ コボヨイ

その声は潮騒と木枯らしに消され、誰の耳にも届くことはなかつたそうな。



雲仙市瑞穂町に伝わる民話。梅澤清さん(NGH会員)が文にまとめたもの。
船津の沖にある瀬をナガサキ瀬と呼ぶ。大潮の干潮時には、広大な瀬を見せる。かつては、あさりや牡蠣などの宝庫だった。満ち潮になると、あつという間に瀬が隠れる所である。大人は子供たちに、瀬はあぶない所だという教えを物語に変えて聞かせていたのであろう。いろいろを囲んで……。

野鳥観察



ツグミ

冬鳥で10月～5月の間、全国の林、河原、農耕地などで見られる。

体長 26cm、腹は白っぽく眉斑も白っぽく黒いうろこ模様がある。地面を歩きながら、ミズや昆虫類を食べるが、冬は木の実も食べる。冬鳥として9月中旬に渡来し単独又は群れで暮らす。

写真は4月11日、諫早中央干拓地で発見撮影した。



小林 征雄

イソシギ

留鳥で海岸、河川、湖沼、水田、干潟などで見られ、尾を上下に振りながら歩き、ユスリカや昆虫を捕らえて食べる。腹部が白く翼の付け根に食い込んでいるのが特徴。口ばしがまっすぐで長く、「ヒューイ」「ピュピュピーー」と鳴く。

写真は4月12日浦上川で発見撮影した。



ビンスイ

夏鳥で体長16cm、4月～10月にかけて、明るい林、木がまばらに生えた草原などで見られる。

尾を上下に振りながら、地上を歩いて昆虫などを探す。地上にいることが多く、驚くと木に飛び移る。飛び立つとき「キツイー」と鳴く。

写真は4月18日岩屋山で発見撮影した。



キジ

日本の国鳥。林、草原、農耕地などで一年中見られる。狩猟用に放鳥されているので見かけることも多い。地上で種子や昆虫などの食物を探し、夜は樹上で眠る。

雄の顔の赤い部分は、皮膚がむき出しになっている。雄は「ケーン、ケーン」と鳴くのですぐ判る。

写真は、4月19日外海町の黒崎永田湿地自然公園で「ケーン、ケーン」と鳴き30分後に発見し、撮影した。

キジの雄

